

柏崎税務署長賞

『私たちを支える税金』

新潟県立柏崎翔洋中等教育学校 四年 西沢 奏乃

私は正直、「税金なんてなければよいのに。」と思っていました。なぜなら、この物価が高い時代に、さらに一〇％の消費税がかかることや、大人達は稼いだお金が多ければ多いほど税金が増えることが、本当に理解できなかったからです。私たちの暮らしが税金によって支えられていることは知っていても、あまり実感できず、ありがたみを感じることもありませんでした。

しかし、私の考え方を変える出来事がありました。夏休みに母と横浜のみなとみらいへ旅行に行った夜、外を歩いていると観覧車やゴンドラなど、街の色々なところが光っていてもきれいでした。感動と同時に、「LEDでも電気代は高いだろうな」と思い、どう維持されているのか考えました。すると、この景観は税金で支えられていることに気付いたのです。税金のおかげでこのような観光地を楽しむことができると思うと、税金の大切さを初めて認識できました。

具体的にどのような税金が観光資源に使われているのか調べたところ、主に以下の２種類だということを知りました。１つ目は、市の仕事を行うための費用を市民が納める市民税です。２つ目は、国民に課される国税です。美しい観光地が、私たちの税金によって支えられていることが分かったことで、地元の観光地も同じだと気づきました。税金を納めることで地域貢献ができるのです。

税金の重要さに気づいたことで、再び身の回りのことに目を向けるようになりました。そうすると、今まで当たり前に感じていたものの中にも、実際は大きな支えとなっているものが多くありました。例えば、身近な学校を考えてみます。校舎、机や椅子、黒板、教科書など、本当にたくさんさんの物や設備に税金が使われています。では、もし税金がなかったらどうなるでしょう。これらの物は当然なくなり、快適かつ安全に勉強できる場所が失われてしまいます。こう考えると、私たち学生にとって、税金の支えはとても大きく、なくてはならない存在だと改めて感じます。

今回の旅行での体験や調べたことを通して、税金への印象が一八〇度変わりました。私も今、消費税は払っていますが、大人になり働くようになれば、所得税や住民税なども支払うことになります。そのとき、私たちが納めた税金が次の世代や社会のために使われ、安心して生活できる環境や、少しでも笑顔で暮らせる街づくりに役立つことを願っています。